

みやぎ生協

● 子ども達の生きる力（思い出づくり）プロジェクト

被災した地域の子どもたちに、夏休みの思い出に残る体験をしてもらおうと、みやぎ生協学校部は「みやぎの子どもたち思い出づくりプロジェクト」を企画しました。この企画には全国の生協や、みやぎ生協に寄せられた募金を活用させていただきました。応募総数は16,886人で、厳正な抽選の結果小学生534人・中学生80人を招待しました。

小学生は東京ディズニーランドと、全日空機体整備工場見学。中学生は北海道東川農協での収穫や、旭山動物園、カルビー工場などを見学・体験するのが目

的です。

その第1回目の中学生コースは7月23日（月）～25日（水）に行われました。参加者のほとんどが初顔合わせ、北海道や飛行機も初めてという子どもが多く、当初は緊張気味でした。しかし、東川農協さんの手厚い対応のバーベキューや収穫体験、動物園・工場見学などのプログラムが進むごとに打ち解けて、最後は「このメンバーだけで新しく学校を作りたい」などと言う子どもも。大自然を満喫し、新しい友だちができたり、生涯忘れることの



北海道で楽しい思い出ができました

ない思い出を作ったことでしょう。小学生コースも晴天に恵まれ、子ども達の明るく満足した笑顔が印象的でした。

（総務部機関運営課課長

稲葉勝美）

宮城労働者共済生協

● 復興支援コンサート「Sharing～シェアリング～2012 in 宮城」開催♪

全労済宮城県本部では、「Sharing～シェアリング～2012 実行委員会」と、みやぎ生協の共催で、復興支援コンサート「Sharing～シェアリング～

2012 in 宮城」公演を、7月21日（土）三井アウトレットパーク仙台港、翌22日（日）みやぎ生協蛇田店で開催いたしました。

呼びかけ人の庄野真代さんをはじめ、四角佳子さん、山木康世さん、田川律さん、桑江知子さん、原田真二さんなど、現役で活躍するミュージシャンたちが出演。開場後すぐに、ご用意した席も満席になり、公演が始まるとコンサートを知らなかった皆さまも足を止め、いつの間

にか観客席の回りは、音楽と歌に耳を傾ける人でいっぱいになりました。各出演者は、個人の代表曲をはじめ、アレンジ曲などを披露。公演の最後には、出演者全員がフィナーレ曲を合唱し閉幕。音楽や歌に合わせて、会場が一体となり手拍子や声を合わせて歌うなど、約2時間の短い時間ではありましたが、皆さまには楽しい時間を過ごしていただけたと思います。

（専務理事 阿部田克美）



みやぎ生協蛇田店会場にて

みやぎ県南医療生協

● 山元町花釜地区で「夏まつり」開催

7月の支援活動では、地元花釜地区の被災者さんやみやぎ県南医療生協の理事、組合員、そして医療生協の近畿ブロックのみなさんと準備をすすめてきた夏祭りが、7月14日（土）に開催されました。

幸い雨はふらず、地元花釜の住民のかただけでなく、仮設住宅からも大勢の被災者の方々が家族づれで参加されました。フリーマーケット、綿あめ、カキ氷、水ヨーヨー掬いなどの縁日コーナーや、特製きづがわラーメン（木津川医療生協）、セン

トラルキッチンハーモニーのカレーライスコーナー、参加者全員のビンゴゲームもあり、まつりは10時から始まり、各コーナーともたくさんの人で賑わい、250人の参加で盛況のうちに終わりました。

今回の行動に参加された団体は、ヘルスコープ大阪、かわち野医療生協、同人会、宝塚医療生協、尼崎医療生協、神戸医療生協、クリエイト兵庫、北野田医療生協、乙訓医療生協、ハーモニー、リップル、北海道



みんなで記念撮影

勤医協C K、みやぎ県南医療生協、合計70人。今後も地元の方々の意見、要望をもとに様々な支援活動を続けてまいります。（常務理事 児玉芳江）

大学生協東北事業連合

● 「被災地視察」



【2012年3月の視察の様子】  
閑上地区日和山にて板垣理事長による案内(上段)  
七ヶ浜ボランティアセンターにて(下段)

東北事業連合では、今年の3月から月1回のペースで被災地視察を行っています。視察では、名取市閑上地区から七ヶ浜ボランティアセンターまでをバスで巡回します。

被災地視察の目的は、大学生に被災地の状況を自分の目で見て感じてもらうことで、今後の復興支援活動に一步踏み出してもらうことです。

当初は20人ほどの参加者数でしたが、7月7日（土）の視察では約120人の参加がありま

した。参加した学生達の多くは「TVや写真で見ると現実とは全然違う」と驚きを隠せません。また、自分の気持ちの整理がつくまで何度か視察に参加し、ガイドボランティアとして企画運営に関わるようになった学生もいます。

今後も東北事業連合では、被災地視察を継続して行い、被災地の現状を多くの学生たちに伝えながら、学生ボランティア活動支援を進めていく予定です。

（常務理事 峰田優一）

## 食のみやぎ復興ネットワーク

### ● 「第2回食のみやぎ復興ネットワーク総会」開催

7月7日（土）仙台市青葉区の勝山館で「第2回食のみやぎ復興ネットワーク総会」が開催され、強い雨の中、114団体から258人が参加しました。

当日は代表幹事のみやぎ生活協同組合宮本弘専務理事から、ネットワーク結成後1年間の活動が紹介されました。

その後、生産者を代表して全国農業協同組合連合会宮城県本部営農企画部官澤千浩部長と、宮城県漁業協同組合芳賀長恒経済事業担当理事から、それぞれ

の分野での復旧復興状況と、生まれてきている新しい可能性について、またこの間取り組んだプロジェクト活動から「仙台白菜プロジェクト」について、みやぎ生活協同組合店舗商品部今野一彦農産部門統括が報告しました。

その後、全国農業協同組合連合会宮城県本部千葉和典本部長が2年目を迎えるネットワークの活動提起を、閉会あいさつは幹事団体から東北国分株式会社降幡進代表取締役社長がそれぞれ



行いました。

最後に、参加者全員で集合写真を撮影し、この写真を7月10日（火）の河北新報朝刊に掲載したネットワークの全面広告に使用しました。

（みやぎ生協店舗商品部・食のみやぎ復興ネットワーク事務局 藤田孝）

## 放射能関連 みやぎ生協

### ● 学習講演会「これからのエネルギーを考えよう」を県内3会場で開催

みやぎ生協は東京電力福島第一原発事故を受け、「原子力発電とこれからのエネルギーについてのみやぎ生協の考え～原子力発電に対するみやぎ生協の見解～」をまとめ、4月に公表しました。

そこで、この問題への理解を

深め、これからのエネルギーのあり方について学び、考える学習講演会を県内3会場で開催します。

その第1回目を8月8日（水）、エル・パーク仙台で80人の参加で開催しました。第1部講師の長谷川公一さん（東北大学大学院文学研究科教授）に、「原子力発電にたよらないこれからのエネルギーのあり方」、第2部講師の中田俊彦さん（東北大学大学院工学研究科教授）に、「再生可能エネルギーと地域社会と暮らし」をテーマに、それぞれ

ご講演いただきました。事例を交えながらのお話は大変わかりやすく、この問題について考えていく上での導きになりました。

第2回は9月4日（火）大崎市民会館、第3回は9月26日（水）大河原駅前コミュニティーセンターで行います。

この学習講演会を通じて、「これからのエネルギー」について議論が広がっていくことと思います。

（くらしの活動事務局

昆野加代子）



エル・パーク仙台での学習会の様子

放射能関連 生協あいコープみやぎ

● やむことのない脱原発の声『さようなら原発 10 万人集会』に 17 万人

6 月 16 日（土）、野田総理は官邸を取り囲む「再稼働反対」の声を無視して、大飯原発を再稼働しました。しかし、子ども達に安心して生きられる未来を手渡したいと願う市民にとっては許しがたいことであり、再稼働反対の声はやむことなく、全国に抗議行動が広がっています。

あいコープみやぎは、7 月 16 日（月・祝）大江健三郎さんらが呼びかけた「さようなら原発 10 万人集会」に、役職員と組合員 9 人で参加しました。猛暑の中、脱原発集会では最大規模の

17 万人が集い、会場の代々木公園サッカー場を埋め尽くし、野外音楽堂広場や道路まで子どもの参加もあり老若男女の市民であふれました。

集会の後のデモでは、「こどもを守ろう」「原発いらない」「再稼働反対」の声を上げ、沿道の人々と微笑みを交わしながら脱原発への思いを伝えました。

黙ってられないからデモに行く。一人ひとりが意思表示する場として、デモは当たり前になりつつあります。そして「動く集会」さながら、人と人との



全国の生協の仲間が集まりました。

つながりを育む場にもなっていると強く感じます。

仙台でも「みやぎ金曜日デモ」が始まりました。あきらめないで意思表示し、仲間の輪を広げていきたいと思います。

（理事 鈴木智子）

放射能関連 みやぎ仙南農協

● 放射能汚染に対すとりくみについて

「絶対安全」だったはずの原発に大事故が発生、南東北、北関東の広い範囲に放射性物質が降下し、地場産農畜産物に対する安全性への不安が、生産者・消費者ともに大きな問題となっています。

昨年の 5 月中旬に福島県境にある牧場の牧草から暫定規制値を超える放射性セシウムが検出され、7 月には稲ワラと肉牛からも確認されました。肉牛については全頭検査体制を確立、乳牛、繁殖牛に与える牧草は代替

粗飼料を供給し、安全性を確保しているところです。

去年 9 月には県の指導により米の放射性物質調査を実施、基準値を大きく下回りました。本年 4 月以降の新基準値 100 ベクレル/kg にむけ、JAみやぎ仙南管内の市町から支援を受け、全水稲作付面積にセシウム吸収抑制対策として「不検出」を目標に塩化カリを散布しました。

JAみやぎ仙南としては、今後とも行政の検査公表体制に全面的に協力するとともに、日本



塩化カリ散布の様子(筆甫地区)

生協連等で実施した福島県内 100 世帯の食事に含まれる放射性物質検査結果など、科学的で冷静な視点から生協メンバーさんとともに風評被害に立ち向かって行きたいと考えます。

（営農経済部部長 三戸部文夫）